

<2022年1月16日(日)の司令官スティーブン・モーリス大佐のメッセージ>

ちょっと想像してみてください。もし、あなたが神であったら、自分が造った人間に自分のことを覚えてもらうためにどんなことをするでしょうか。驚くような奇跡を起こして、自分の声を届けますか？本人が気づかない内に、心や思いに入りこむ方法を取りますか？人間の注意を引くために、どんな方法でも使えるとしたら、どんなことをしますか？

ある時、神様が人間に愛を示すためにどれほどのことをしてくださるかというメッセージを聞きました。夜、運転をしながら聞いていた時で、私は空の月の美しさに圧倒されました。そして月自体には光がないことを思ったのです。月が造られた目的は、太陽が照らしている地球の反対側の部分に、必要な光を照らすことです。今アメリカと日本でやりとりする中で、昼夜が反対であることをいつも感じています。今日はわたしたちが月の創造から学べることを共に考えたいと思います。創世記の1章14-19節です。

神は言われた。「天の大空に光る物があって、昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるしとなれ。15天の大空に光る物があって、地を照らせ。」そのようになった。16神は二つの大きな光る物と星を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治めさせられた。17神はそれらを天の大空に置いて、地を照らせ、18昼と夜を治めさせ、光と闇を分けさせられた。神はこれを見て、良しとされた。19夕べがあり、朝があった。第四の日である。

アダムとエバが造られる前です。神様は明確な目的があって月を造られました。この目的を果たす以外に月が造られる理由、存在する理由はありません。まず神様は、昼と夜を分けるために太陽と月を造られました。月が実際にその目的を果たしていることに、誰も異論はないでしょう。太陽が出ている時が昼、月が出ている時は夜というのは明らかです。次に、月は季節、そして月日のしるしであると創世記にあります。実際にももとの私たちの暦は月の動きを元にしていました。月を見て、作物の栽培の時機を判断しました。一日の流れや作物の栽培、季節の動きや一年の長さは、月がしるしとなってくれています。

しかし特に目を留めたいのは、月がわたしたちの人生のしるしともなるという部分なのです。月自体が光を発するのではないと先に言いました。そのように造られたのです。車を運転しながらメッセージを聞いていて気づかされたのは、月の大事な役割はしるしとなること、サインを送るということでした。月は私たちにサインを送るのです。

被造物の中で、人間だけが神の似姿に造られました。神様の似姿に、そして地球の世話、管理をすることを目的に、私たちは造られたのです。生き物を名付けることも、神様は自分でするよりもアダムにそれを任せました。神の似姿であることの表われのひとつです。

しかし月の一番大切な役割は、私たちが何のために造られたかを思い起こさせるサインを送ることだと思うのです。月はあくまで太陽の光の反射体です。真っ暗な夜に輝く月を見ると、光を発していないことが嘘のようですが、それが事実であると皆が知っています。

もっと大きい、力ある光をただ反射しているのだと。太陽の質量は月の60万個分だと聞いたことがあります。

同様に、私たちも自分自身に光はありませんが、特別な目的があって造られました。神様の光を映し出すという役割です。私たちは罪をもって生まれましたが、悔い改めて、聖霊に内に住んでいただく時、神様を映し出すことができますのです。私たちはそれぞれに特別な目的のため造られ、それは、神様の姿を映し出すことです。

これからの一週間、誰かに怒りを感じたり、愛に欠けた言葉を言いそうになる時、自分が神様を映し出しているか考えてみてください。今週、自分の内におられる神様の臨在に心を留めて、生かされている目的を果たしていきましょう。私たちは誰も、偶然に、無作為に存在しているわけではありません。神様の大きな計画の中で役割があります。

皆さんが日本にいることには、周りの人にイエス・キリストを映し出すという特別な理由があるのです。私も同じです。自分の内には光がありません。ただ私の内に住む聖霊が光を与えてくれるので、他の人とは何かが違うと見られるべきなのです。

目的を説明する方法は数多くありますが、みなさんが夜空に月を見る時、神様を映し出すという大切な役割を思い出していただきたいと思います。神様は被造物を用いて、私たちへの愛を示しておられます。私たちを通して、暗闇に光が照らされ、暗闇にいる人たちが光を知ることができるように、神様を知ることができるようにと願っておられます。その人たちが聖霊の光を照らすことができるように。この暗い世の中にどれほど必要なことでしょうか。

イエス様の光がみなさんの生活と心に輝きますように。主を映し出すことができますようにお祈りいたします。